

会議名 地域とともにあるコミュニティ・スクール研修会

開催日 平成27年8月31日	会議時間	開会 午後 6時30分 閉会 午後 8時30分
会議場所 ニセコ町民センター 研修室1	記録者 ニセコ中学校事務職員 三坂 宜巳	
出席者：学校運営協議会推進委員会委員、学校評議員、町PTA連合会役員 教育委員、教職員、教育委員会事務局職員 計29名		

会議内容

1. 開会（司会進行：加藤課長）

2. 教育長あいさつ

全国学習状況調査（児童生徒質問紙）の地域行事への参加状況についての質問で、ニセコ町の小中学生は全国平均を大きく上回る割合で参加していることがわかった。子どもたちが学校だけではなく、地域に育てられている状況を示すデータだが、さらに幼児センターから高校まで、全町をあげて地域とともに子ども達を育てて行きたいと考えている。この方法として、コミュニティ・スクール導入に取り組んでいきたい。大玉村の事例を参考にしながら、ニセコ町に合ったスタイルを考えたい。

3. CS導入の取組について

調査研究事業の目的・内容・スケジュール・全国のCSの指定状況などについて、資料に淵野学校教育係長より説明。

4. 講演

講師：文部科学省コミュニティ・スクール推進委員（CSマイスター）

福島県田村市立緑小学校長 安齋 宏之 先生

テーマ：「地域とともにある学校づくり」

～コミュニティ・スクールの経験を通して～

(1) はじめに

○「開かれた学校づくり」は30年前からはじまっている。現在でも、学校評議員、学校評価、PTAといった取組みがある。その中で、なぜ「地域とともにある学校づくり」が必要なのか考えてみる必要がある

○学校が抱える問題の多様化（いじめ、不登校、虐待）、学校評議員の意見聴取や学校関係者評価の形骸化、教職員の多忙化などへの対応が必要ではないか

(2) コミュニティ・スクール（以下、CS）って何？

○CSは保護者や住民が一定の権限や責任をもって学校運営に参画する学校運営協議会が置かれた学校を言う。学校運営協議会の委員は教育委員会が任命する。

○役割は、①学校運営の基本方針の承認（必須）、②教育委員会や校長に対する意見（任意）、③教職員の任用に対する意見（任意）

○似た制度で学校支援地域本部があるが、学校のマネジメント（PDCA）で考えると、学校支援地域本部は実施（D）の部分のみ。どんな子どもを育てたい

かという部分（PACの機能）が共有されていないと、地域の人たちは離れてしまう。そのためにも、CSは有効な手段

- 全国では2389校がCSを導入（前年比470校増）。文部科学省でも積極的に進めている
- 子どもにとっては、地域の人に関わることで学びが体験的になる。生活の場も学校と家庭のみから地域が加わることで安心感が増す。また、地域の担い手としての自覚も生まれる
- 教職員にとっては、きちんと仕事を理解してもらえる場になる（多忙はなかなかなくなるが、多忙感は減る）
- 保護者にとっては孤立がなくなる（虐待防止にも）。地域の人にとっては、新しい役割が生きがいにつながる（特に高齢者）
- CSの成果が出るには時間がかかる。粘り強く取り組むことが重要
- CSで校長の明確なビジョンを示すことで、地域が校長を応援するようになる。校長の権限を縛るものではない
- 教職員の任用に関する意見でトラブルとなった事例はない（主な意見は、特定の先生を残してほしいといったもの）

（3）大玉村の事例から

- 安定した教育の質の確保（異動に左右されない）、小中一貫教育（子どもがあつての学校。校種がかわっても一貫した教育）を行うことに加え、行政・学校依存からの脱却のために、学校を核とした地域づくりを推進
- 大玉村では、幼小中を「おおたま学園」という一つの学園体とした、統合運営型コミュニティ・スクールとした。CSコーディネーターを1人事務局として置いている
- CS委員会は部会に分かれて活動している。学校支援・地域教育部会では学校支援地域本部事業や放課後子ども教室の企画運営を行っている。広報部会では、学校が地域に情報を発信するため、CSカレンダーをみんなで作成した
- CSカレンダーには学校＋地域の行事を掲載し全戸配布。学校と地域を繋げるツールとして好評
- 委員は教育については素人。学校について学ぶ場としてCS委員会を開催している。委員を育てていくという発想が大切だ
- CSの成果→困難な課題への対応（大震災後の対応で実感）、学校支援の充実（先生が地域の人の手を借りて授業）、地域の人意識の変化（CS委員がきっかけで、地域の老人会のリーダーに…など地域に積極的に関わるようになる）
- CSは導入すれば終わりではない。毎年、新しい教員や保護者に入れ替わるので、学び続ける仕組みを作ることが大切だ。あわせて、CSに関わる時間の創出のための事務効率化や財源確保も
- 具体的な取組み＝漢字検定に向けた丸付けボランティア、親子で弁当を作るマイ弁当デー（楽しみと同時に親の苦勞を知る）

（4）これからの教育改革の方向性

- CSと小中一貫教育は一体的に推進するべき。小中一貫教育を支えていくのがCSである（小中で一貫した生徒指導、アクティブ・ラーニングの取組み）

○ニセコ町では、たくさんの外国人との交流で、英語の大切さを知り、そこから自分の世界が広げることができるのではないかと

○子どもを中心につなげる縁=子縁で、教育の充実、地域の活性化を図っていききたい

5. 質疑応答

○すばらしい取り組みと感じたが、一方で教員の負担も気になる。負担減で工夫していることはないか？

→CSを導入すれば、会議開催などで負担は増える。しかし、子どもが豊かに育つ姿を見れば、多忙感を感じない教員が多いのではないかと。目には見えないが、地域や保護者に助けられていることも多くなるはず

○明確な教育ビジョンや共有化できる子ども像の設定をどのようにしておこなったのか？

→保護者や地域住民に、課題や子ども像についてアンケート調査をした。その結を、保護者や地域の人が入った教育ビジョン検討委員会で検討し、案を1年かけて作った。その案について地域の人たちと意見交換などを行い、最終的には委員会に提案し、一語一句検討し進めてきた

○今抱えている学校の問題、いじめ・不登校・児童虐待・教員の心の病などに、大玉村ではどのように取り組んでいるのか？

→学校をオープンにすることが重要。多くの目が入るといじめはなくなってくる。不登校の要因には中1ギャップがある。小中一貫した教育で子どもの学びと育ちをつないでいく。虐待は地域みんなで支えることが大事

6. 閉会あいさつ（渡邊校長・学校運営協議会推進委員会委員長）

ニセコ町も大玉村と同じように、学校行事を地域の人たちが支えてくれているものがたくさんある。CSを導入することで、系統的に地域の協力が得られるようになれば、子どもたちの力を高めていけるのではないかと。子どもたちにとってよりよい仕組みを作れるよう推進委員会も進めていきたい。